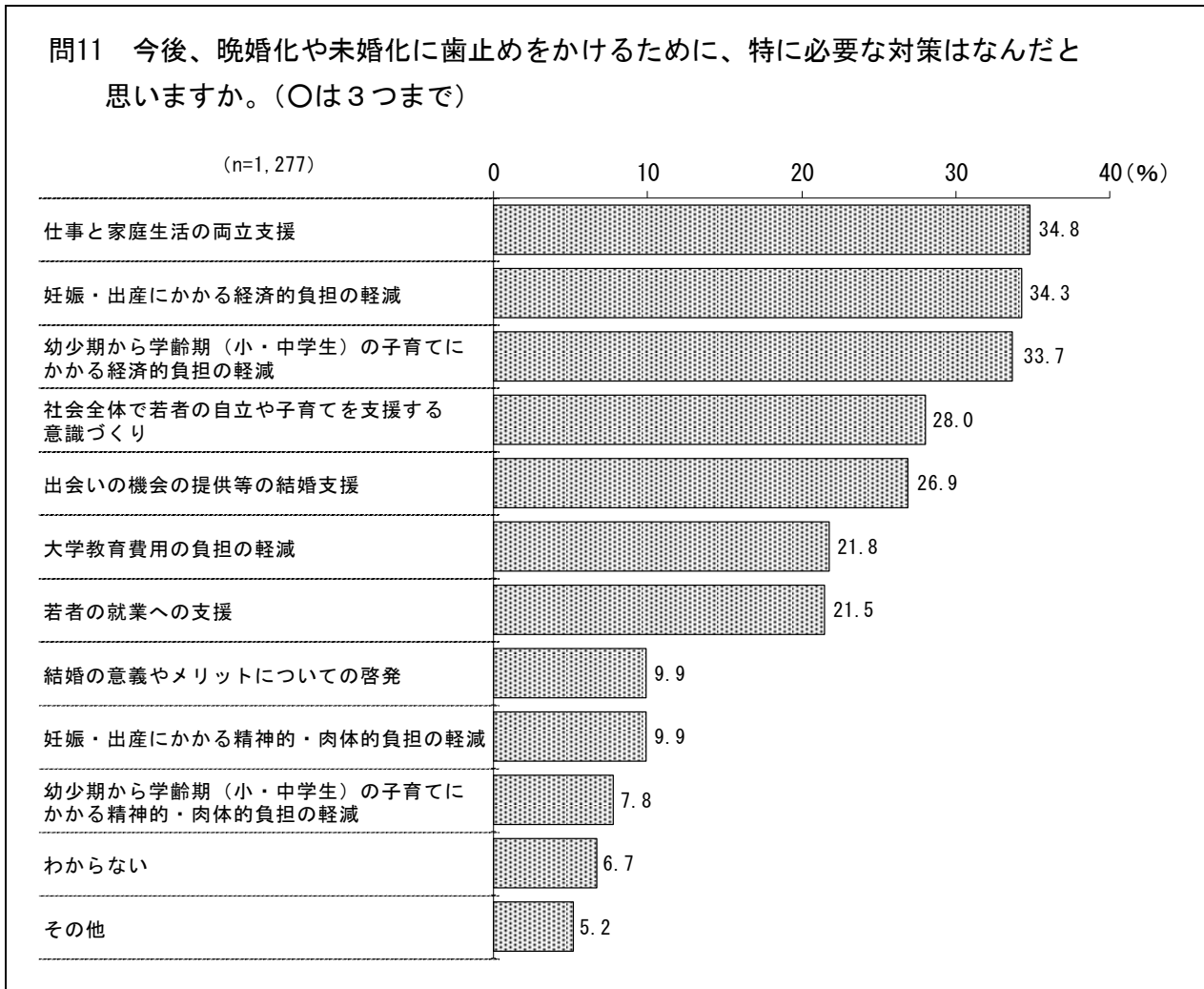


(4) 晩婚化や未婚化への必要な対策



晩婚化や未婚化に歯止めをかけるために、特に必要な対策はなにかたずねたところ、「仕事と家庭生活の両立支援」(34.8%)が最も高く、3割半ばとなっている。次いで、「妊娠・出産にかかる経済的負担の軽減」(34.3%)、「幼少期から学齢期(小・中学生)の子育てにかかる経済的負担の軽減」(33.7%)、「社会全体で若者の自立や子育てを支援する意識づくり」(28.0%)、「出会いの機会の提供等の結婚支援」(26.9%)、「大学教育費用の負担の軽減」(21.8%)、「若者の就業への支援」(21.5%)と続いている。

<性別・性／年齢別・区別結果> (上位10項目)

性別でみると、「仕事と家庭生活の両立支援」は女性が男性より11.3ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「妊娠・出産にかかる経済的負担の軽減」は男女とも年齢が若いほど高くなっており、女性30歳未満では、7割を超えている。「幼少期から学齢期(小・中学生)の子育てにかかる経済的負担の軽減」は39歳までの女性が5割以上となっており、30～39歳女性が最も高い。

